

学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成

～伝え合い交流する～

I 研究の具体的内容

1 「伝え合い交流する」ことをより充実させる授業づくり

(1) 研究授業及び研究会

第5学年 算数「図形の角を調べよう」 授業者 飯室 美華 教諭

(2) 一人一実践授業

第1学年 算数「ひきざん」 授業者 新海小緒里 教諭

第2学年 音楽「ひょうしを感じてリズムをうとう」 授業者 鈴木奈津美 教諭

第3学年 図工「春夏秋冬美術館」 授業者 青柳満里子 教諭

第3・4学年 道徳「友情とは」 授業者 小野 紀男 教諭

第6学年 算数「比例をくわしく調べよう」 授業者 田邊 博幸 教諭

ひまわり学級 第5学年 算数「わり算の筆算」
授業者 広瀬 早理 教諭

2 コミュニティ・スクールに関する取り組み

(1) 理論研究及び学習会

- ・「コミュニティ・スクールとはなにか」

講師 山梨県義務教育課 指導主事 小田切 武先生

- ・「コミュニティ・スクールの概要と山梨県内の動向」

講師 山梨大学教育センター教授 日永 龍彦先生

(2) 単元と学習ボランティアの洗い出し

- ・コミュニティ・スクールに関する地域学習一覧の作成（1～6年）
- ・コミュニティ・スクールに関する学習ボランティアの洗い出し（1～6年）

3 意欲的に学ぶ学習集団づくり

(1) 学習規律の確立

- ・学習規律に関するアンケートの実施（年3回）と分析・児童の実態把握。
- ・学習規律の定着のための、強化週間の取り組み。

(2) Q-U調査の分析と対策

- ・K-13法による分析と対策

3 学びの基盤となる学習環境づくり

(1) 家庭学習の習慣化のために

- ・自主学習の取り組みについてのアンケート実施
- ・自主学習チャレンジ週間の実施と学習内容の紹介，全職員による点検・評価

- ・全校の取り組み一覧表の掲示
- ・大和小の学びの甲斐善八箇条の制定と、家庭学習振り返りの日の取り組み

II まとめ（成果と課題）

1 授業づくりに関わって

研究授業や実践授業を通じて、「伝え合い交流する」ための具体的な学習活動について研究、実践してきた。昨年度までの取り組みで、話し合い活動の中で学び合うことに課題が見られたが、ペア学習や話し合い活動の手順やルールを学級の中で決めたり、児童の実態にあった学習形態の工夫や教材教具の工夫をおこなったりしたことにより、以前より意見を深め合うことや学び合うことができるようになってきた。

今年度コミュニティ・スクールの指定を受け、校内研の中でも学習会や単元の洗い出し等をおこなった。理論研究をおこなったことで、本校なりのコミュニティ・スクールの取り組みが見えてきた。今年度の研究を来年度につなげていきたい。

2 学習集団づくりに関わって

Q-Uアンケートを2回実施し、K-13法による分析を行った。様々な視点で児童のようすを分析し、解決方法を考えることで学級集団作りに生かすことができた。昨年度までは、ブロックでの分析のみだったが、今年度は全職員で結果を共有し、共通理解の下指導できるようにした。しかし、2回目の結果の共有ができなかったため、児童の変容も含め2回とも全職員で共通理解を図って指導ができるようにしたい。

大和小の学習のきまりについては、年3回のアンケートを行い、児童にできていない点への取り組みを自分たちで考えさせるとともに、強化週間をもうけ全校での定着を図ることができた。

3 学習環境づくりに関わって

家庭と連携した学習環境づくりに関しては、チャレンジ週間に、担任以外の職員によるチェックと評価をおこなったり、振り返りシートの活用や取り組みの一覧表の掲示をおこなったりと、昨年度までの課題をもとに様々な取り組みを進めた。その結果、児童が意欲を持ち、取り組みを進めることができた。しかし、まだ自主学習の内容には個人差が見られる点や、自主学習の習慣化が難しい児童への働きかけなど、課題もでてきた。今後も工夫して取り組みを進めたい。

III 成果物

研究授業、実践授業の授業案（ワークシート等も含む）

コミュニティ・スクールに関する地域学習一覧・学習ボランティア一覧

地域学習に関する生活科と総合的な学習の系統表

（研究主任 新海 小緒里）